



【会長のご挨拶】



押上一丁目仲町会
町会長 多賀康之

早いもので、ついこの間が明けたと思ったら、3か月が過ぎようとしております。コロナウイルス感染症の第8波は、年末をピークに収束し、政府は3月13日以降、マスクの着用は、個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断が基本となりました。また、ゴールデンウィーク明けの5月8日からは、現在の2類から季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げる方針を打ち出しました。3年間ぐつと我慢していた行動規制・自粛が解け、正常な町会運営ができるのではないかと期待をしております。今年には4年に1度の統一地方選挙があります。4月16日告示、4月23日投票開票です。年々投票率が下がっている傾向のようですが、墨田区を暮らしやすく、働きやすくしていたための大事な選挙ですので、ぜひ投票所に足をお運びください。

統一地方選挙の影響だとは思いますが、春の交通安全運動は、今年も5月11日（木）～20日（土）に開催します。ニッポンレンタカーの前に横断幕と幟を設置して交通安全を呼びかけますので、ご協力をお願いします。交通安全運動が終わった次の日になりますが、5月21日（日）にクリーンキャンペーンがあります。昨年は、多くの方に参加していただ

押上一丁目仲町会広報部

編集責任者 山本 勝信

第九十六号

令和五年三月三十一日

きました。今年もよろしく願います。

3年間、中止を余儀なくされておりました隅田川花火大会ですが、公式にはまだ発表しておりませんが、区長はやる気を前面に押し出しておりました。必ず開催されるものと確信しております。開催されましたら、押上駅周辺、町内の警備や美化見回りなどにもご協力を賜りますようお願い申し上げます。

秋の飛木稲荷神社のお祭りは、昨年は神幸大祭でしたので、今年も9月8日（金）～10日（日）の3日間の例大祭となります。お神輿の担ぎ方などを忘れてしまった方は、6月初旬に開催されます上陸のお神輿で練習されることをお勧めします。（昨年上陸様から奉納がございましたので、今年はこちらからも奉納で伺います。）

行事への参加協力依頼ばかりで誠に恐縮ですが、最後に特殊詐欺への注意喚起で、締めたいと思います。今年も年頭に警察署長に話を伺う機会がありましたが、耳にタコができるほど聞いております特殊詐欺のお話でした。他の犯罪は減っているのですが、この特殊詐欺を減らすことで人々が平和に暮らせると考えます。

警察官、金融庁、銀行員、区役所職員などに成りすまして、キャッシュカードを奪い取ったり、ATMで振り込ませるなどの手口です。電話がかかってきて、以下の言葉が入っていたら間違いなく詐欺ですので、警

察に連絡してください。キーワードは、「還付金・お金が戻る」、「キャッシュカード・カード」、「暗証番号」です。また、ATMで電話をしている人を見かけたら、詐欺にあっている電話ですので、銀行の係の人を呼ぶなりして被害を未然に防ぎましょう。

【総務部長】

大橋 祥子

桜も満開になり、過ごしやすい季節になりました。花粉症の方には毎年必ずやって来る辛い毎日ですが頑張ってください。

来年度（令和5年4月）は、町会役員の改選になります。

役員の人手不足は深刻な問題です。コロナウイルス感染者も落ち着いてきて、今後は例年通りの行事があるでしょう。皆様と顔を合わせて元気な声を聞くことが出来れば嬉しいですが、人手がなければ数年前までのように行えるかは、難しいと考えられます。

町会会員の皆様のご協力が必須となりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

町会内で未だにゴミの不法投棄が1箇所あります。美化問題や瓶が投棄されているので危険性もあります。絶対にルールを守って決められた曜日に出して下さい。

今まで地区部長の方々には大変お世話になりました。

本日に有難う御座いました。

【しらとり子供会】

笠松 貴美子

3月11日（土）に押上一丁目町会と合同でボーリング大会を開催しました。



ボーリング大会開催されたアイビーボールにて参加した子供たち

毎年、この時期は歓送迎会を開催していましたが、この3年間はコロナで開催中止となっていました。保護者同士が交流する場がなく残念に思っていました。やっと今年このような形で会を設けることができました。ボーリング大会では、日頃登校班で見る子どもたちとはまた違った表情をたくさん目にすることができました。初めてボーリングする子ども段々とコツを掴みスコアを伸ばしていき、経験のある上級生は下級生へ教えるなど微笑ましい光景がたくさん見られた会となりました。終了後は卒業・入学・進級祝いの図書カードの贈呈と記念撮影を行い解散となりました。



2022年4月13日午前11時撮影

【スカイツリー周辺の桜】

ソメイヨシノが咲き誇る頃は穏やかな季節となり、お花見に出かけたくなるが、意外に晴天が少なく花曇りと呼ばれる事も多い。

ソメイヨシノは大きめの花を付ける一重桜で、若葉が出る前に枝を覆うように咲くため見応えのある姿となる。しかもソメイヨシノは同一の原木から枝を接木して増やしたため、コピーと同じで木の性質にバラツキがなく、同じ環境なら同時に花が

咲くため、遊歩道や公園に植えたソメイヨシノは一斉に咲く事になり、いっそう魅力的な桜に感じる。満開を迎えたソメイヨシノは、花吹雪や花筏などの楽しみとなるが、今年は暖冬気味で早めに満開を迎えるようだ。

八重桜と呼ばれる花びらが数十枚もある品種もあり、開花時期も4月



中旬頃で、2回目のお花見が楽しめる。八重桜は若葉が伸び始める頃に花びらを重たそうに下に向けて咲くため、新緑に包まれて咲くが見上げるように眺めると豪華な花がびっしりと咲いている。八重桜は品種も多いためリレーのように花の時期は長く、新緑の時期の桜なので意外に目立たないのが大変惜しい。

開業10年を迎えた東京スカイツリー周辺にも色々な桜が多く植えられており、10年経ってかなり大きく育ち、満開の姿はとても見事になる。北十間川やライフの裏手の遊歩道には八重桜が植えられていて、かなり立派な姿になっている。(MS)

【押上界限の歴史あれこれ】 三五、回向院

横井 正男

前号で紹介しましたが、江戸時代は「火事と喧嘩は江戸の華」といわれていたほど江戸市中には火事が多発していました。特に、約三六〇年前の明暦三年(一六五七)一月に発生した大火は江戸時代で最も大きな被害を出しました。俗に「明暦振袖火事」といわれています。江戸市中の三分の二を焼き尽くし、死者は十万人を超えたと言われています。

両国 回向院

江戸幕府四代将軍徳川家綱は、「本所の開拓」に先立って、隅田川東岸の牛島に「万人塚(無縁塚)」を設け、火災による多くの身元不明の焼死者を埋葬し弔いました。これが回向院建立の起源です。回向院は、宗旨の分らない遺体を埋葬していることから、一宗一派にとられない寺院と

いうことで、正式名称は「諸宗山無縁寺回向院」と命名されました。



写真1 両国回向院正門(山門)



写真2 関東大震災犠死者之墓

回向院は、その後も大火・大震災・水害など天災・人災の無縁の亡骸(なきがら)を弔いました。近年では関東大震災や東京大空襲などによる犠牲者も埋葬されています。

回向院は昭和二〇年(一九四五)三月の東京大空襲で焼失しました。

当初の回向院は西向き(隅田川の方向)に建立されていました。回向院と同時期に設けられた両国橋(当時の橋は現在より約一〇〇m下流の位置)を江戸城側から渡ると橋の正面突き当たりが回向院の正門(山門)でした。江戸時代の画家・斎藤月岑

の版画「江戸名所図会回向院」には、正門をくぐりぬけると、本堂も正面の西向きに描かれています。戦後の



再建時には、正門(写真1)の位置は京葉道路に面して境内の北側に設けられました。

回向院境内には様々な石碑・お墓があります。現存する主な碑は、「安政の大地震供養塔(一)」「浅間山大噴火供養塔(二)」「奥羽飢饉供養塔」「関東大震災犠死者之墓(写真2)」「鳥居清長墓(三)」「山東京伝墓(四)」「京山墓(五)」「二代目中村勘三郎墓」「鼠小僧次郎吉墓(六)」「力塚」等です。

回向院と大相撲

明和五年(一七六八)、勧進相撲が回向院境内で初めて行われました。勧進相撲とは社会事業の資金集めのための相撲興行です。興行は随時行われていましたが、天保四年(一八三三)の秋から年に二回の定期興行が、回向院境内で行われる様になりました。更に明治四二年(一九〇九)には境内に常設の旧々国技館が建設されました。戦災での焼失が免れた国技館は一時、米軍に接収され、蔵前に移りました。昭和六〇年(一九八五)国技館は再び現在の地、両国に戻ってきました。国技である相撲と両国の地との深い縁は、こうして今日まで続いています。

南千住回向院

荒川区南千住にも回向院があります。

この地は昔、小塚原こつかはらといい、江戸

時代には品川の鈴ヶ森と共に二大刑場がありました。ここでの牢死者や刑死者の菩提を弔うために、両国回向院の別院として、寛文七年(二六六七)に創建されました。幕末の安政の大獄(一)により処刑された吉田松陰をはじめ多くの人たちが埋葬されています。

また、江戸時代中期の医師前野良沢(二)・杉田玄白(三)・中川淳庵(四)は、明和八年(一七七一)にここでの腑分け(解剖)に立ち合い、オランダの解剖図の正確さに驚き、翌日からその翻訳に取り掛かりました。そして三年後に有名な「解体新書」を完成させたと言われています。

【注釈】

- *1 安政の大地震 安政二年(一八五五)江戸を中心に発生、マグニチュード推定六・九、死者一万人に及んだと言われている。
- *2 浅間山大噴火 天明三年(一七八三)の大噴火で、千人以上の死者を出した。
- *3 鳥居清長 (一七五二―一八一五)江戸時代中期の役者絵・美人画の浮世絵師。
- *4 山東京伝 (一七六一―一八一六)江戸時代中期の戯作者・浮世絵師。山東京山は弟。
- *5 鼠小僧次郎吉 (一七九五―一八三三)江戸後期の怪盗。鼠の様に身軽で大名屋敷・武家屋敷を専門に夜盗を働いた。約十年間に百回以上、凡そ一万二千両を盗み、捕えられ市中引回し後、処刑された。
- *6 安政の大獄 安政五年(一八五八)から翌年にかけて大老井伊直弼政権が反対派を大弾圧した事件。反発した志士による桜田門外の変で政権が崩壊。

*7 前野良沢 (一七二三―一八〇三)江戸時代中期の蘭学者・医学者。幼くして両親に死別、叔父に育てられた。蘭学の始祖青木昆陽から蘭学を学んだ。

*8 杉田玄白 (一七三三―一八一七)江戸時代中期の蘭方医・蘭学者。若狭小浜藩医の子として生まれる。解体新書の刊行を中心に蘭学導入の回想録を記した「蘭学事始」も著した。

*9 中川順庵 (一七三九―一八六)江戸時代中期の蘭医・若狭小浜藩医・幕府医官。本草学・蘭学を学んだ。



浅草寺門前の枝垂れ桜が満開に開花していました。コロナ禍が終わり、待ち遠しかった春を楽しめます。

【編集後記】

規模の大きな賃貸マンション建設が一段落して、今後は小規模賃貸マンションや「狭い土地でも家が建つ」という住宅建築が増える気がする。

建物が古くなるとメンテナンスやリフォームをしなければ価値が下がるので、持ち家でも賃貸でも費用を掛けて直したり、便利のように改善する事になる。放置すると資産価値が下がるが、地域全体の税金や物価まで下がる訳ではないから、資産価値だけが落ちて行く。

「住みやすい」とか「暮らしやすい」という漠然として評価し難い地域の住環境も、現在の価値を維持したり、向上しようと努力している人達によって支えられている。大変な努力だが、心有る人達が地域の環境や伝統を守る姿を見ると頭が下がる。(MS)

